

日四十月七年七和昭

刊夕 日三十月七



敵討

五月雨沼

木津茂太郎

笠川長九郎は親の敵を探ねる者であった。その敵といふ者はあつた。

即ち天保八年の五月十三日のこと。

梅雨時なのでしょばくと陰氣な雨が降つてゐた、

雨は青い蘆の葉に音を立てゝ降つてゐた、長九郎は沿

べりの小徑をとぼとぼと歩いてゐた。歩いてゐたが長

九郎の頭の中は殆ど空ッぽであつた。ほんやりとしてふぬけの様になつてゐた。

長九郎の足は或る處まで歩いて來た時、釘を打たれ

た様にびたりと止つた。彼の眼は捨小舟のやうな

一枚の苦舟に吸ひ寄せられ

てゐた。舟の中には一人の浪士風の侍が坐つてゐた、

その侍の傍に明るい花の様な一人の極彩色の女が坐つてゐた。女と云つても十七

突立つたまゝだつた。女の美しさに驚いたのではなかつた。女の傍に坐つてゐる

び合ふてにつこりする、さ

侍の顔を見て仰天したのである。

その侍こそは長年辛苦難

難して探ね求めてゐる敵ではないか。源之丞ではなかつたか。

『おつ』と長九郎はうめいた。(敵だ敵だ! 源之丞だ!)

次の瞬間、長九郎は水際に駆け出して立つてゐた。

『墨田源之丞、尋常に勝負致せ!』

かう長九郎が叫んだ時に九郎の方を振り向いたが、

一寸理由の譯らないといふ様な表情をした。

すると侍は女に云つた。

『お兼さん』

女は珠をころばす様な澄んだ聲で答へた。

『変な男ではござらぬか、きづと狂人でございませう』

舟が一つゆれて、波紋が水の面へひろがつて行つた。

『三十郎さま』

二人はおたがひの名を呼

定價一ヶ月金五拾錢
廣告料五個十二字話一行金五拾錢
日曜祭日、翌日休刊
發行委託人別個人川崎文子
發行所常磐橋每日报六三〇
印制所常磐橋新開社
郵局五號十二字話一行金五拾錢
日曜祭日、翌日休刊
發行委託人別個人川崎文子
發行所常磐橋每日报六三〇
印制所常磐橋新開社

初夏サロモンの新装

店内清楚にして氣持良く

アイスクリーム十五錢
タンク入りソーダ水十五錢

ドーナツ御用命を

田町サロモン

電三五二番

即時御用立致します
國庫、勸業、復興債券、高級質札買入並金融、恩給、年金及簡易保險(前借失効可)即時立替、債券取立
▼御報次第店員參上秘密融通

平町南町(廿三夜側)

伊

東

◎經濟優美

靈松自動車

橋本屋造花店

平町新川町
電話一六三番

入院隨意

電話六八五番

外性病科
X光線科

平町田町

代理店西村屋藥舗
電話四七五番

中村外科醫院

平町二丁目(電三)

高橋時計店
貴金属
時計及眼鏡類
懷中電燈
ランプ特約店
キミガヨ電氣
平町小路
時計店

月星

品質は斯界の王
名入れ金具附きの

運動靴は…

大塚運動具部

平田町
電話七七番

木村病院
平新川町十九
外産婦人科
婦人科院長木村寅次郎
電話一六四番

内臓外科
整形外科
泌尿器科
醫學士内木宗八

中村外科醫院
平町鍛冶町七

外科

X光線科

入院隨意

代理店西村屋藥舗
電話四七五番

二井タクシー

東

茨城縣是が未だ

マユ代を不拂

業を煮やした高久村取引者

委員を擧げて嚴重請求運動

石城郡下の春蘭取引不況の爲め不正仲買人の金廻りが悪いので養蚕家各自が警戒し被害には割合少なかつたが從来植田勿來等の郡南方部を根據地として手を伸し更に飛躍して平四倉附近迄進出して巧に持約組合を

組織し三千餘圓の取引が行はれた模様であるが其蘭代の一部に今日に至るも未拂居ると、

十日委員を擧げて縣是本社に代金仕拂の請求運動を起し其の成行きを注目されあり高久村の取引者は去る

一、双葉郡新山町に開れ

二、今夏各地に行れる講習會に講習員派遣の件

由にて今后も内臓整形各外科及び泌尿科に從事せられ定を見たので平署管内より

の受驗者も今後はA型車体

にて練習を積む必要になる譯であると

磐女體育部が

水戸市に遠征

大會の腕試めし

磐城高等女學校体育部にて

中等學校体育大會の腕試め

は今秋九月行れる縣下女子陸上各競技の外庭球籠球等である

郷武道會

初秋蠶は磐

種を統一する

收蘭増石見越さる

石城在郷軍人分會では来る廿八日午前九時より磐城中學校劍道場で分會員の武道會を開催する事になつたと

各小學校教務會は本日午後

一時より第二小學校に於て

一する事となつた外初秋蠶

の掃立期は從來七月廿七

祝賀寄附

江名濱から

石城郡江名漁業組合では本日小名濱町に於て舉行され

た磐城丸竣工祝賀に長

る夏季大學山席勧誘の件

放課後各學年の級長及び組長會を開き夏休中に於ける行事を協議すると

嗣子茂儀永々病氣之處療養不相叶

昨十二日午後零時二十分死去致候

間御通知ニ換へ此段謹告仕候院に於て告別式執行仕候

木村病院に 内木氏招聘 川町木

自動車試験の車体が變更

本縣甲種自動車運轉手試験の試験自動車は從來舊式のT型フォードシボレー等を

使用して居たが九月よりの

一、夏季体育施設の件

既に博士論文完成提出中の

學部の外科講師となり研究はれた模様であるが其蘭代の一部に今日に至るも未拂居ると、

一、今夏各地に行れる講習會に講習員派遣の件

既に博士論文完成提出中の學部の外科講師となり研究はれた模様であるが其蘭代の一部に今日に至るも未拂居ると、

一、夏季体育施設の件

既に博士論文完成提出中の

學部の外科講師となり研究はれた模様であるが其蘭代の一部に今日に至るも未拂居ると、

蠶業取締支所

地鎮祭を舉行さる

けふ午前九時から

平陽女學校の傍に

磐女庭球

指導者を招き

けふから本氣に

磐城高等女學校庭球部にて

は愈よ大會も近づいたので

同校卒業生にて東京二階堂

体操學校に在り昨年全日本

一般婦人庭球選手權大會に

決勝戦迄漕ぎつけた上澤マ

サ及び松崎セイの二娘を招

き本日より必勝を期し猛練習を開始した

傘日とルソラバ

美影點の傘日とルソラバ・頭街の日麗

ヤルツ

四平

| | | | |
|----|---|---|---|
| 父 | 森 | 本 | 盛 |
| 母 | | | |
| 總代 | 加 | 藤 | 丈 |
| | 精 | | |
| | | | 一 |

貸切は ● ●

セダン揃ひで

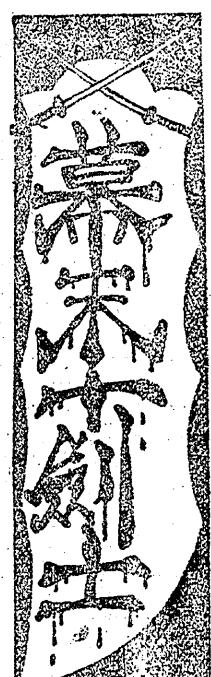
貸切専門の

昭和タクシーへ

市原醫院

平町田町
電話一一四番

電話三四三



【蔡轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第一百席

眞庭念流達人櫻井五助

要介林藏の出立

秋山要介は藤太郎の話

を聞いて

子分を集めて林藏の此處を出立するを待つてゐるか

藤『見張りを置いて用心してゐます、是から何方へお出になるかどうぞ途中氣を附けて……』

要『出立するを彼等に應ずるか、先方にそれだけの用意があれば此方もそれに應ずるだけの手筈をする何にも恐れることは無い』

藤『さうでございませうが何うしても脇差の二百本位はございません』

要『さうか、それも宜からう二百本の脇差が光つたらば嘸ぞ美事であらう、薄に

月が映すると思へば恐ろしいこともない、マア結構だ

藤『ところで先生と親分にお願ひがございます』

要『なんだ願ひとは』

藤『わたくしの命の助かりましたのはあなた方お二人のお骨折でござります、そこで此處を引拂ふ時に、の

内に加へておくんなさい、

イザ死ぬとなれば一緒に死にてえと思ひます』

要『ウムどうしたもんだの林藏、眼球は連れて行つてくれると云ふのだが』

林『藤太さん、その思召し

申します、就ては藤太さん

が腕貸をして下さると云ひなすつても此方ではお断り

申します、就ては藤太さん

が腕貸をして下さると云ひなすつても此方ではお断り

申します、就ては藤太さん

が腕貸をして下さると云ひなすつても此方ではお断り

申します、就ては藤太さん

が腕貸をして下さると云ひなすつても此方ではお断り

申します、就ては藤太さん

が腕貸をして下さると云ひなすつても此方ではお断り

前さん方に腕貸をして貢ひませうが、何しろもう上州に歸つてしましましたからさういふ譯にもなりません

廣澤村の兵右衛門の子分で申します、就ては藤太さんよく知らしてくれた、これ

は甚だ軽少だがお禮の印だ

どうぞ受取つて置いて下さ

い』と出したは五両、林藏

の腹の中を割つて見ればこ

んな者の一人や二人助太刀をしてくれたところで何の利益もなく却つて邪魔にな

は頂戴いたします、ところ

で親分此家の主人左兵衛は佐『長りました、何時頃お立ちでございませうか』